

『広辞苑』（第7版）に見るポップカルチャーの台頭」（比較文化史学会、国士館大学梅が丘校舎 34号館 3階 A308 教室、平成 30年 2月 27日）

平成 30年 1月に 10年振りに『広辞苑』が改訂された。新たに追加された言葉は約 1万語である。『広辞苑』は国語辞典と百科事典を凝縮した内容を網羅しており、研究者の用語の定義を行う際にはよく利用されるものの 1つと言ってよいだろう。わからないものはインターネットで調べ、Wikipedia といった DIY 的な事典もあるが、信頼性という点からすれば研究で積極的に活用するには限界もあろう。実は「ポップカルチャー」という言葉も第 6版にはなく、第 7版ではじめて収録されたのだ。これまでは見出し語ではなく、「ポップ」という見出しの語の追込項目の中で取り上げられた。『広辞苑』の編集方針では、すでに「ポップ」が親項目としてあるため、新たに「ポップカルチャー」が見出し語となることはないのだ。新たに項目となったもの、新しく意味が追加されたものにポップカルチャーに関連するものがあるため、ひとつの尺度としてポップカルチャーの浸透度として『広辞苑』（第 7版）を利用することは大きな意味があるのではないだろうか。漫画家も項目として取り上げられる一方、「仮面ライダー」「アンパンマン」が新たに項目として取り上げられた意味を考察した。